

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム わがの里

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390600062		
法人名	社会福祉法人 和江会		
事業所名	グループホーム わがの里		
所在地	〒024-0073 岩手県北上市下江釣子11-2-17		
自己評価作成日	令和3年1月14日	評価結果市町村受理日	令和3年3月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>入所者の笑顔が毎日見られ安心して、生活出来るように見守りや声をかけながら支援しています。</li> <li>家族のように側に寄り添い生活のお手伝いをしています。</li> </ul>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

北上市郊外の和賀町長沼地区と江釣子地区に跨る田園地帯に社会福祉法人和光会が立地し、グループホームのほか、特別養護老人ホーム、保育園などの施設を運営している。グループホームは開所して10年以上経過するが、それを感じさせない内外立派な造りとなっている。利用者は9名全員女性で、平均年齢は87.6歳、平均介護度は約2であり、丁寧な支援でおむつから解放されたり病状が軽快した利用者もあり、看取りにも取り組み、チーム介護力は高い。利用者の状況報告を写真付きで毎月送付しており、家族との信頼関係は高く、コロナ禍での面会制限中、家族の安心感につながっている。昨春秋には、隣接する保育園の園児が屋外からハロウインの歌と踊りを披露し、利用者を元気づけるプレゼントがあった。今後も、感染防止に配慮しながらの事業継続の工夫と、地域住民との日常的なつきあいによる利用者支援や災害対応の構築を期待する。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和3年2月4日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : グループホーム わがの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「いつも笑顔で安心して暮らせる日々を目指して」 ・まごころこめて生活のお手伝いをします。 ・家族のようにいつもあなたのそばにいます。 を理念とし、努力しています。	施設開設時に職員全員で考えた基本理念は、10年を経過した今も変わらない。事業所理念は、玄関入り口に掲示され、キーワードの「笑顔」や「安心」は、職員に浸透し、日々の利用者支援に活かされている。管理者は、開設当初からの理念の見直しも必要と認識している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事に参加。(本年度はほとんど中止) ・鬼の館へ催し物の見学。 ・地区行事への参加 ・特養やデイ、保育園の行事参加。	毎年定例で行っていた殆どの交流事業が、コロナ禍で中止となり、地域の清掃作業にも職員のみ参加した。秋のハロウィンにあわせ、系列の保育園4歳児約20名が訪れ、この夏には、屋外でソーシャルディスタンスを保ちながら、ウッドデッキから園児の歌や踊りの披露を見学し手を振ったりと、利用者は久しぶりの交流機会を喜んでくれた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日々のケアを実践をしながら、認知症への理解を深め、地域に発信出来るように努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2ヶ月ごとの会議を実施している。 ・今年度は書面にて開催している。 ・利用者の生活の様子を報告し、家族や委員の方達からも意見を頂いている。 ・写真を提示して近況を報告している。	運営推進会議は、コロナ禍で書面会議として開催し、会議意見書も同封し意見要望を伺うようにしている。市の担当者からはコロナの感染対策や様々なアドバイスをいただいている。事業所が旧和賀町と旧江釣子村境に立地していることから、両地域の区長や民生委員を委員に委嘱している。通常開催時には、次回の日程を確認することで、出席率向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・運営推進委員に市担当職員に参加頂いてい。 ・地域医療の連携等についてもアドバイスいただいている。	今年度の運営推進会議委員に、市の長寿介護課職員に委員をお願いしている。事故報告や要介護認定申請の手續に管理者や介護支援専門員が出向いている。現在利用者はいないが、以前、生活保護手続きについて相談したことが、以降の対応の自信となっている。地域包括支援センターからは、空き状況の照会が入ることがある。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム わがの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・夜間や突発的な場合には含みを持たせるが、原則として行なわないこととしている。 ・身体拘束の指針に基づき対応中。	毎月1回法人本部で、リスクマネジメント会議が開催され、管理者が参加し職員に復命している。職員の研修会は5月と9月に実施した。現在の入居者で帰宅願望があったり、身体拘束を実施している方はなく、日中は玄関の施錠はせず、外に出たい利用者には職員と一緒にいて対応している。スピーチロックと思われる場合は、管理者は気づいた都度注意をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	・職員会議で研修機会を設け考え方を徹底している。 ・同上		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・職員会議等で研修の機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は、入所前に説明を行い、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・運営推進委員の中に利用者家族も委員として参加頂いている。 ・面会時に家族の意見や要望を聞くようにしている。	運営推進会議には、2家族に委員を委嘱している。コロナ禍での面会制限や運営推進会議を书面開催としているため、話を聞く機会は減っている。利用者・家族から施設運営に対する要望は無いが、定期的に面会していた家族からは、利用者を心配する様子が窺われ少しでも会いたい等の要望が出されている。感染防止に配慮しながら家族の要望に応える工夫をしている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム わがの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議には、全員参加で意見を交換している。	毎月の職員会議は、非番の職員も参加して開催している。コロナ禍の今年度は、制約がある中で事業の見直しや、代替え方法等の提案やアイデアが出され検討しているとしている。毎年法人全体で開催している夏祭りを事業所内で開催し、職員の提案で金魚すくいやかき氷づくり等を楽しむことが出来た。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を行い、職員の意識などの確認をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・研修には、積極的に参加している。 ・外部研修への参加は縮小。 ・介護職員初任者研修に1名参加。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・グループホーム協会に加入。 ・今年度参加の実績なし。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入所前の訪問調査等を行い、本人からの話を聞くなどの対応をしている。 ・顔見知りになる機会を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入所前に訪問調査し、家族の話を聞いている。実際に本人、家族が施設に来所してもらい、どのような所なのか確認できるようにしている。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム わがの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族と話し合いながら、他のサービスの利用状況を確認し、入所日を決定するなどして対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	そばに付き添いながら話を伺い、家族のようにいられるよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などは、生活の様子などを伝えながら本人の思いを伝えたり、家族からの意見を伺いながら対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の親類に来所頂いたり、自宅周囲の方との関係を継続できるよう努めている。	入居前に聴き取りを行った「暮らしの情報シート」等を活用し、馴染みの人、場所を把握して支援に努めながら、新しい情報があった場合には申し送りや会議時に共有化を図っている。コロナ禍での面会制限や外出自粛により、馴染みの人と会ったり、馴染みの場所に出かける機会は減っており、計画していたふるさと訪問も再開出来ずにいる。定期的に来所される床屋さんは、3か月に1回程度の頻度で7名が利用している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の居場所が決まって来たり、食事は全員で食堂で食べ、顔を合わせる機会を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退所した方の居宅ケアマネより、退所後の様子を聞いている。 ・ホームへ移転した方へは(家屋が近いので)ときどき面会している。(今年度は連絡のみ)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の生活傾向に配慮し、本人の思いに沿って行っている。</li> <li>・本人の話を良く聞いたり、家族に様子を報告しアドバイスを頂いたりしている。</li> </ul>	利用者のアセスメントにはセンター方式を用い、職員間で利用者の思いや意向の理解に努めている。意志疎通にののために、時間をかけて丁寧なやりとりが必要な利用者は3名おり、簡単な質問や答えやすい声かけを行い、利用者の表情や動作、行動で思いを判断している。拒否や憤怒の様子が見て取れる際は、対応を変えたり、すこし距離をおくこともある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に伺っているが、入所後の生活の様子を見ながら、家族から再度伺うこともある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌に日々の様子を書きながら、状態の把握に努めている。朝・夕のミーティングにて担当者どうしの申し送りを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月の職員会議に、ケアの困難な所を出しその都度話しあっている。</li> <li>・同会議にて個々の計画の評価を行っている。</li> <li>・家族からの意見も求めている。</li> </ul>	介護計画掲載のサービス提供内容のモニタリングは、居室担当から出た意見も交えて介護支援専門員が行っている。毎月の職員会議には、職員全員が参加しており、モニタリング後の計画原案について、意見や提案を出し合い見直しを行っている。家族からは、家族連絡表(利用状況報告書)を活用し意見や希望を確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケース記録を活用したり、朝・夕の申し送りによって生活の様子を共有している。</li> <li>・毎月の会議で利用者一人一人の目標を確認しまた評価している。</li> </ul>		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏場は16時からの夕方入浴を行っている。</li> <li>・法人の地域貢献事業に参加している。</li> </ul>		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム わがの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市の移動図書館を利用している。</li> <li>・家族協力で馴染みの美容院に行っている</li> <li>・近隣の理容店より訪問散髪を頂いている。</li> <li>・保育園との交流を推進している。</li> </ul>		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問診療(隔週2回)等を活用している。</li> <li>・必要時は家族から通院の支援をいただくこととしている。</li> </ul>	<p>コロナ禍にあっても、月2回の訪問診療の頻度は変わらず、利用者全員が受診している。皮膚疾患の通院や乳がん罹患後の経過観察には、家族対応で専門医への受診が継続されている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問看護→毎週水曜日に来所。</li> <li>・入所者の状態を報告し、変化等があれば主治医に報告している。</li> </ul>		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	<p>入院等があった場合は、情報提供することはもちろんのこと、入院中は訪問し様子を伺うなど、退院等についても看護師に聞き、家族とも相談している。</p>		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<p>・終末期のあり方については、家族の希望は聞いている。医療的な関わりが多い場合は受け入れが困難である事は説明している。</p>	<p>医療依存度が低い状態で、希望があれば重度化、看取りの対応も行っている。2年ほど前には、肺がんの方と胃がんの方の2名の看取りを行い、昨年度の退所者2名は、系列の特別養護老人ホームに入所している。看取りを経験している職員は複数いるが、夜勤帯での負担感は大きく、管理者は職員への配慮が必要と認識している。</p>	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急マニュアルを作成している。</li> <li>・定期的な訓練は行っていない。</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期の避難訓練を行っている。</li> <li>・地域に特養の防火協力隊があり、年1～2回に実地訓練を行っている。</li> </ul>	ハザードマップ上では水害の心配がなく、通常は火災、地震を想定した訓練を実施している。法人本部には地域住民で組織された防火協力隊が組織されているが、事業所単独での地域との協力関係は十分とは言い難い。	法人本部と合同の訓練のみならず、事業所単独で、薄暮や夜間想定のみニ訓練の励行をすすめられたい。併せて、関係者や近隣住民との協力関係構築を期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介助や支援の場面において、利用者のプライバシーに配慮している。	入浴介助時に、タオルで胸から腰をタオル覆ったり、トイレでの排泄時は外で待ちながら様子を伺ったりと、羞恥心への配慮を心がけている。入居契約時に個人情報の取扱いを説明し、広報等への写真掲載の同意確認も行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご本人の希望を聞いて対応している。</li> <li>・介護職員のペースで話すことが無いように留意し、利用者の話をゆっくりと聞くようにしている。</li> </ul>		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課表をある程度の基準としているが、全てその限りでは無く、利用者本人の意向やペースを尊重しながら行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者と職員が外出し本人に衣類等を選んでもらい購入する機会を設けている。</li> <li>・入浴時に着替えの衣類を選んでもらったりしている。洗髪後は、頭髪の乾燥後鏡の前で整えてもらっている。</li> </ul>		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・献立作成時には、希望を聞いている。</li> <li>・社会的距離を保ち、職員も一緒に食べている。</li> <li>・年に数回焼き物パーティーを行っている</li> </ul>	利用者に食べたい物を聞きとり、給食係が献立をたて、系列事業所の栄養士に毎月確認をお願いしている。利用者は麺類(ラーメン)が好きで、週に1回程度は提供している。昼食時間は職員も一緒に食事をとり、食後の後片付けは利用者も行っている。屋外のミニ菜園では、沢山の夏野菜を育て食材に活用している。春と秋のドライブでは、道の駅で予め注文していた昼食を食べたり、年末には手打ち蕎麦やクリスマスケーキ等の行事食も提供している。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム わがの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・献立は職員が立てるが、特養の管理栄養士に栄養面・バランス等の確認をしてもらっている。 ・食事摂取量を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、歯磨きや舌の洗浄、入れ歯も本人に洗ってもらっている。 ・夜間は入れ歯を保管している。入れ歯は週2回洗浄剤で消毒している。 ・訪問歯科、歯科衛生士の指導あり。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食前食後の排泄介助・随時の介助等を、排泄記録用紙に記録し対応している。	失敗や、状態に応じてパット等を使いながらも、トイレでの排泄支援と布パンツ使用を基本とし、失禁尿量を確認した上でパットを選んでいる。最近入居された利用者が肛門疾患で、対応に苦慮したが、オムツにはどうしても排泄できず、二人介助にてトイレでの排泄に成功した例もある。3名の布パンツ利用者のうち、2名は入居後の対応で改善した方々である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・朝食後の排泄介助・水分補給・下剤の服薬確認等を行っている。 ・排泄の状況は適時訪問診療や訪問看護の来所時に報告している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・年間を通じて夕方16時～入浴している。 ・1人週3回入れるように計画している。 ・本人の拒否があれば、次の日に声がけしている。足浴を実施することもある。	就寝前に入浴習慣を尊重し、職員配置を工夫することで夕方からの入浴としている。冬場は寒く湯船につかる時間も長めとなるため、開始時間を少し早めたり、皮膚疾患改善のため毎日入浴している利用者もいる。嫌がる場合、無理強いせず職員が交代したり、時間をおいて声がけをする工夫もしている。脱衣所の猫の写真は評判が良く入浴の楽しみとなっている利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	冬期間は、「足が冷たくて眠れない。」と訴える入所者には、湯たんぽやホットタオルで足を温め対応している。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム わがの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・内服はほとんどの方が服薬している。 ・内服の変更時は、薬の効能や用法を申し送り、服薬確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・モップ掛けや、洗濯物・タオルたたみ、食器拭きなどを、お願いしている。 ・畑の耕作や草取りを職員と一緒にいることがある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・施設では、母体の特養ホームからリフト車や軽自動車借りて、地域行事へ参加している。近所への散歩、公園へのドライブ等を行っている。 ・ふるさとドライブ、外食ドライブ季節のドライブを行っている。	冬期間を除き、日常的に、事業所周辺をマンツーマンの対応で10～15分程度散歩している。車椅子利用者は、ホールから自由にウッドデッキでの日光浴や外気浴を楽しむことができる。ドライブの回数は減ったが、年2回は外食を兼ねてドライブを計画しており、昨年10月には道の駅錦秋湖へ紅葉狩りを楽しんだ。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金のしくみを設けて、希望や必要に応じて使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	・入所者が電話を希望した際は、本人に電話番号を確認し、相手の了解を得て通話している。 ・家族からのはがきや手紙は本人に手渡し読み上げている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・展示スペースを利用し、普段の様子・行事等の写真を貼付している。 ・個人の作品も展示している。 ・玄関前に季節の花を植えている。	施設内は居室を含め床暖房が設備され、ホールが寒い時はエアコンを併用し快適な生活ができるよう配慮されている。ホール内のキッチンや事務カウンターからは利用者の動きが見渡せるようになっている。ホール中央には、食堂としてのテーブルが、その南側には居間としてのソファが配置され、居間からは自由にウッドデッキに出入り出来る。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム わがの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・こたつ・ソファの利用や食堂テーブルの定位置で過ごしている。 ・好天時はベランダ席で日光浴や食事をする事がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真やぬいぐるみなどを置いている。	居室にはベッド、大きめのクローゼットが備えつけられている。居室の壁には利用者それぞれ思い出の家族写真や好きな動物の写真等が飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・着替えや歯磨きなど自分で行っている。 ・手すりの設置により、歩行支援をしている。また、浴室にも手すりを増設置し安心の基入浴出来るようにしている。		